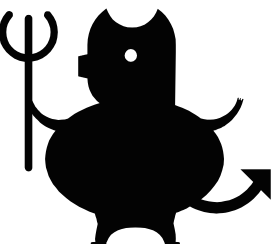


Méccénat

理想的なメセナの在り方とメセナの限界



Yuma Katsumata

Satomi Shirakawa

○ Morimura Séminaire 2010

文献内容**

□ 知識人や芸術家を誘惑する企業戦略-事情を熟知している文化メセナの主役たち

◇ メセナ(文化奨励)=流行

■ 広報情宣活動を行う会社

→象徴的な投資の最良の方法を企業に指導

→(企業が)科学や芸術界とのコンタクトをとるためのサービスを提供

■ メセナの研究者・芸術家たちへの影響

→研究者が、出資者から問題点、主題などを押し付けられる

→芸術家や研究者たちは、経済的・精神的・物質的に、企業からのメセナに依存している

■ メセナと市民とのかかわり

→芸術や科学へのメセナは、もともと市民の金(税金控除によるもの)

→だがメセナの出資金は、まるで企業の無欲な気前の良さのお陰であるように見える

→象徴的なものと物質的なものとの交換の影響

◇ メセナをひけらかす広報情宣活動の操作(⇔メセナの伝統的な考え方)

■ メセナという名称を援用しながら

→企業が、利他主義のオーラを持つ

→スポンサーリング、財の交換

→スポンサーは芸術家に金融財、芸術家はスポンサーに象徴財を

例)カルチェの社長「メセナは世論を誘惑する道具である」

→マーケティングのためのメセナ

→自身にとって都合のいい政治的雰囲気を作るためのメセナ

→税金・労働管理・健康にかかわる法令

→エコロジー上の制約・製品の輸出など

→象徴的銀行預金の論理・チェックアカウントセオリー

→よいイメージにより、いくつかの活動を隠蔽

→企業によるマスコミ支配

→マスコミが作品の商業的成功に寄与することによる媒介

→他律・商業的論理(⇔自律)

□ 挑発としての芸術作品－感覚の回路へ

◇ 「メセナ奨励者たち」の象徴的戦略への対抗

→メセナを媒介に企業が行っている象徴的な活動について、ジャーナリストに語らせるように仕向ける

→罨

■ ハンス・ハーケの作品

→敵対する人々によって破壊される

→破壊行為への批判的意図を打ち出した一連の言説を沸き起こさせた

■ ハロルド・ピンターの作品(湾岸戦争に反対する詩)

→知識人が無力になっている事実に対する反論

→メディアにのっかった一部の知識人が、知識人の衰退に加担していると主張

→イギリスで、発禁処分になった

◇ 「触媒の働き」を持つ作品

→意図的であるか否かにかかわらず、社会的・政治的雰囲気の影響

→単に発言・態度表明をするだけでなく、実効性のある挑発を作り出すことが重要

→公の議論を沸き起こさせる

→しかし、マスコミが拡声器の役割と、議論のためのフォーラムの役割をする必要がある

→マスコミの二重の駆け引き

→好奇心をひきつけておける出来事でページやTV画面を埋め尽くさなければならない

■ 世論を作る

→デモで成功するのは、たくさんの人を動員できるかどうかではなくて、より多くのジャーナリストの興味をひきつけるかどうか

■ 「旗を上げよ」(1991)

→中央の旗「アピール・イラクにおけるドイツ産業」

→他の旗

→ドイツ企業名のリスト

→イラクの兵器製造に貢献

→設置場所:ケーニヒ広場(ナチスの集結点)

議論 * * 理想的なメセナの在り方とメセナの限界

◇ 理想的なメセナの在り方

伝統的な考え方 : 企業はまた見返りを求めずに、芸術と文化に財政援助を行うこともある。これはメセナの最も純粋な型であり、最もまれな型である。(『ヨーロッパのメセナ(1991)』)

現状 : 企業⇒利潤の追求を目的
見返りを求めない伝統的なメセナ活動は困難

⇒それでは、現状を踏まえた上での理想的なメセナ活動とは？(発表班の見解)

理想的なメセナ活動 : 芸術家・研究者の主体性を優先
企業に見返りがある

理想的でないメセナ活動 : 芸術家・研究者が居心地の悪さを感じる
＝自主性の自由がきかない
芸術家・研究者が企業に依存している状況

◇ メセナの限界

ハンス・ハーケのいう「伝統的なメセナの考え方」でさえ、企業と結びついて
いる以上、全ての芸術家たちの支援をすることは出来ない

参考文献 ＊ ＊

『ヨーロッパのメセナ』

Jacques de Charender Guy de Brébisson 著 大野朗子 訳
社団法人 企業メセナ協議会(1991)

『企業と文化の対話』

佐々木晃彦 編

東海大学出版会(1991)